

いつもと違う美容院。いつもと違う美容師さん。六本に束ねられた私の髪。腰まであった長い髪は、耳までになった。

みなさんはヘアドネーションという活動を知っていますか。ヘアドネーションとは、がんや白血病、先天性の無毛症、不慮の事故で髪の毛を失った十八歳までの子どもたちに、完全オーダーメイドの人毛ウィッグを無償提供する活動です。一人のウィッグを作るのに、三十人分の三十一cmの髪の毛が必要です。ヘアドネーションで作ったウィッグはその子に合うように採寸するので、フィット感が良く、誰の目からも違和感がありません。現在もウィッグを待ち望んでいる子どもたちが大勢います。

ヘアドネーションをした理由は、私が小児がん経験者だからです。私は一歳半の時に小児がんの一つ、肝芽腫であることが分かりました。肝芽腫とは肝臓にできる悪性腫瘍のことです。日本では一年に約三十から四十人が発症し、十万人に一人の病気と言われています。

私は抗がん剤と手術で病気の治療をし、七ヶ月間入院しました。抗がん剤の副作用で髪は抜けてしまいました。幸い幼かったので、容姿を気にすることはありませんでしたが、家族から見るととても痛々しい姿に見えたそうです。もし、髪が抜けてしまうことを気にする年齢になっていたら、とてもショックを受けていたと思います。

そして、私はヘアドネーションの活動を知りました。「絶対やろう」と心に決め、髪を伸ばし始めました。途中で髪が邪魔になったり、洗って乾かすのが大変になったりする時期もありました。不思議と切ろうと思ったりはありませんでした。一年をかけ、目標の三十cmの髪をのばすことができました。私の髪で作られたウィッグで、病気と向き合っている子が少しでも笑顔になり喜んでくれたらと願っています。

また、私は抗がん剤の影響で、体内で血液を作ることができなくなり、輸血が必要となりました。献血でいただいた血液で私は命をつなぐことができました。献血ができる年齢になったら献血をしたいと思っていました。しかし、輸血経験のある私は献血することができません。とても残念な思いもあります。しかし、私がこのような経験をみなさんに伝え、血液が必要な子どもたちが多くいること、献血を少しでも意識してもらえることが、私にできることだと考えました。

闘病中はたくさんのお医者さんや看護師にお世話になり、助けてもらいました。また、自分の家族はもちろん、一緒に入院していた仲間とその家族にも支えてもらいました。多くの私たちの支えがあり、今の私があります。成長し自分の病気のことを理解していく上で、ヘアドネーションなどのボランティアや多くの人に小児がんを知ってもらうような活動をしたいと思っています。誰かのために何かしようという思いは、きっと自分のためになるでしょう。そして、私を動かす力になっていきます。困っている、苦しんでいる人と向き合い、話を聞いてあげる、心に寄り添ってあげるだけでもその人の気持ちはとても楽になると思います。言葉や行動で表すことはできなくても、人の気持ちに寄り添うことは誰にでもできることだと思います。ほんの小さなことでもいいのです。自分に何ができるかを考えてみるのが大切なのです。

「誰かに支えてもらった」という実感は、今は「だれかを支えてあげたい」「恩返ししたい」という気持ちに変わりました。病気になったことはよいことではありません。しかし、病気になったことで得たもの、病気にならなければ分からなかったこともたくさんあります。十万人に一人の経験。それを伝えることは私にしかできないことだと思っています。

私の将来の夢は小児科医になることです。それも私にできる一つのことだと思うから。